季節にあわせて 川崎市立川崎病院の行事

川崎市立川崎病院では、季節ごとに様々な行事を行っています。これは、患者さんやご家族の方々にとって、少しでも気持ちの癒しに役立てればと思い、取り組んでいるものです。
今回は、過去に行なわれた行事の中からいくつかをご紹介いたします。

子どもたちに・・・

病室にサンタとトナカイとピエロがやって来た！！

川崎市立川崎病院の小児科では、子ども達に季節感を味わってもらいたい、また、入院中の励みにして欲しいという思いから、医師・看護師共同企画の手作りのクリスマス会を行っています。

昨年の12月15日には、サンタやトナカイにふんした看護師や医師が、1歳から16歳の児童約20人と一緒に歌を歌ったり、子どもが考えたクイズに答えたり、ケーキを食べながら楽しいひと時を過ごしました。

この時は、院内のボランティア推進委員会と共催しました。ボランティアの方々は、秋から手作りのクリスマスオーナメントやツリーを作成し、オーナメントを小児科病棟に飾りました。当日は、ボランティアさんふんするピエロがマジックを披露したり、子ども達のリクエストに答えて風船で動物を作ったり、紙芝居や絵本の読み聞かせをしてくださいました。子ども達は、やさしい声やアトラクションに目を奪われ、プレイルームには終始笑い声が響いていました。

さらにボランティアの方達による手作りのクリスマスツリーがプレゼントされ、子ども達は大喜びでした。参加できなかった子どもにはサンタがそれぞれのベッドをまわりプレゼントを枕もとに配り、ご家族からは思いがけないたのしい出来事に感謝と喜びの声をいただきました。

音楽で心の癒しを・・・

１階ロビーに癒しの空間出現 心に響くやさしい音楽

川崎市立川崎病院では、毎年１月に新春コンサートを行っています。このコンサートは、今年で13回を数えましたが、様々な方が「患者さんの癒しになれば・・・」と、ボランティアでこのコンサートに参加してくださっています。

今回は、1月19日の午後6時から、箏とフルート、ピアノで和楽器と西洋楽器のジャンルを超えた組み合わせによる活動を行っている「アンサンブル彩華（さいか）」の皆さんと、詩の朗読を行う秋山雅子さんに、ご出演いただきました。

当日は、会場には入院患者さんとご家族・お見舞いの方々、外来患者さんなど400人を超える観客が集い、「春の海」や「リープ」「さくら幻想曲」などのフルートと箏、ピアノによる演奏と、詩の朗読とピアノ演奏のコラボレーションによる、楽しい一時を過しました。

今後もさまざまな行事を行います。

ボランティアしませんか？

当院では、外来案内や小児科病棟、院内図書等の様々な場面でボランティアの方が活躍しています。

ご協力いただける方は、ボランティアコーディネーター（看護部管理室）までご連絡ください。

睡眠時無呼吸障害検査はじまりました

睡眠時無呼吸症候群とは、眠っているときに呼吸が停止した状態を繰り返し、深い睡眠がとれない病態を言います。心筋梗塞や高血圧・脳卒中などの心血管疾患・生活習慣病を高率に合併し、突然死の原因となることが知られています。また、十分に深い睡眠が取れないために、日中に眠気が起こり、仕事や勉強に集中できず、交通事故の原因となることもあります。睡眠中の上気道（のど）の閉塞が原因として最も多く、特徴的な症状としてはいびき・日中の眠気・疲労感・集中力の欠如などが挙げられます。当院では、こうした症状を持つ方に対して、内科（呼吸器内科）と耳鼻いんこう科で連携し、簡易型睡眠呼吸検査装置を用いたスクリーニング及び上気道閉塞の精査を行い、睡眠時無呼吸症候群とその合併症の治療にあたっています。

編集後記

たいへん遅くなって申し訳ありません。「くすの木」第12号をお届けいたします。
ゴールデンウィークも終わり、そろそろジメジメした梅雨の季節が近づいていますね。体調に注意して夏に備えましょう。（広報委員会）

川崎市立川崎病院
シンボルツリー

川崎市立川崎病院通信

第12号

くすの木

平成１９年５月７日発行（第１２号）　発行責任者：鈴木　康夫　編集：広報委員会
事務局：川崎市立川崎病院庶務課　川崎市川崎区新川通１２－１　電話044-233-5521
http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/home.htm

川崎市立川崎病院の基本理念

川崎市立川崎病院は、自治体病院として、市民に最善の医療を提供し、地域の皆様の健康と福祉の向上に貢献することを目指し、その目的のために職員の和とたゆまぬ研究心をもって、次のことを実践してまいります。

1　「病気」ではなく「病人」を診る患者さん中心の医療
2　地域の基幹病院として、質の高い医療を提供
3　健全な経営基盤の確立

[患者さんの権利」

1. 生命の尊重と、人格を尊重した医療を受けることができます。
2. 安全で安心できる良質な医療を受けることができます。
3. 患者さんご自身の病気や治療について、わかりやすく、また、十分な説明と、その情報の提供を受けることができます。
4. 希望や意見を述べていただき、診療方法については自らの意思で選択あるいは拒否することができます。
5. ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師の意見を聞くことができます。
6. 診療上の個人情報は保護され、その秘密は守られます。

ＩＣＵ・ＣＣＵ病棟について

集中治療専門医研修機関の認定を受けています

当院の５階には手術室に並んで、ＩＣＵ･ＣＣＵ病棟があります。

ＩＣＵ･ＣＣＵとは**I**ntensive　**C**are **U**nit, **C**oronary　**C**are　**U**nitという英語をそれぞれ省略したもので、日本語に直すと「集中治療室」と呼ばれる病棟です。大手術の直後や、生命の危険にかかわるショック状態の患者さん、また、器械を使用した高度医療を必要とする患者さんの治療に当たっています。

ＩＣＵ･ＣＣＵの病床では、各ベッドに心電図や血圧を常時表示可能なモニターを、また先進医療に対応できる最新機種の人工呼吸器や、持続血液浄化装置、補助人工心肺装置などを備えています。

さらに、この病棟では重症患者ケアを学んだ認定看護師を中心とした看護スタッフが、常に２ベッドに対して１人以上勤務しており、手厚い看護体制をとることが可能です。

また、日本集中治療医学会認定の集中治療専門医が各科の主治医とともに患者さんの治療にあたることにより、最新の知識や技術をもとにした医療を提供できるように努力しており、日本集中治療医学会から集中治療専門医研修施設としての認定を受けております。

Nutrition Support Team

NSTが活動しています！

川崎市立川崎病院には、入院患者さんの栄養管理を様々な職種で行なう「栄養サポートチーム（ＮＳＴ:Nutrition Support Team ）」があります。
今回はこのＮＳＴの取り組みをご紹介します。

NSTとは

従来の医療では、患者さんの治療は主治医と担当看護師が中心となって行うことが一般的でした。しかし、最近の医療の進歩は目覚ましく、各種医療情報も非常に増加してきており、個人の能力だけで情報を収集・処理して治療にあたるだけでは十分とはいえなくなってきています。特に、医師・看護師以外の様々な職種が携わる必要がある医療分野ではこの傾向は顕著です。これに対応して近年、様々な職種のスタッフが知識と技術を持ち合って、医療を行うチーム医療が発展してきました。

ＮＳＴもその一つで、入院している患者さんの栄養管理を主治医・担当看護師だけでなく、チームとして協力してかかわって行っていくものです。

ＮＳＴは1、980年代に米国において始まり、日本においても、2000年ころから急速に普及してきています。2006年からは、日本栄養療法推進協議会がＮＳＴ稼働施設を認定しており、現在日本全国で621施設、神奈川県で29施設が認定されております。

川崎市立川崎病院では、2005年11月からＮＳＴを立ち上げ、2006年4月からはＮＳＴ部会として活動を行っており、日本栄養療法推進協議会のＮＳＴ稼働施設として認定されております。

当院でのNSTの取組

当院では、2002年から摂食嚥下障害（食べること、飲み込むことの障害）のある入院中の患者さんに対して、リハビリテーション科医師、耳鼻科医師、歯科医師、看護師（各病棟及び外来から１名以上）、歯科衛生士、言語聴覚士、栄養士、薬剤師、作業療法士をメンバーとした摂食嚥下障害専門班を立ち上げて、チーム医療を行っていました。

入院中の患者さんに対して、主治医・担当看護師と摂食嚥下障害専門班が連携して、飲み込む機能のスクリーニング、多種・多段階の嚥下障害に適した食事の提供及び嚥下造影（飲み込み機能のレントゲン検査）を施行して、できるだけ安全に口から食べることが出来るように対応してまいりました。2005年度は嚥下造影を年間260件と本邦でも有数の件数行っております。

ＮＳＴは、この摂食嚥下障害専門班を発展させ、従来のメンバーに内科・外科・小児科・麻酔科医師、臨床検査技師、作業療法士、地域医療部、医事課を加えた、非常に多職種メンバーにて構成しています。これら様々のメンバーにて構成することにより、各々の持つ多くの知識と技術を共有しあって、より高いレベルのチーム医療を行うことができるようになりました。

NST活動の内容

現在は、主治医、担当看護師からの栄養管理に関するコンサルテーションに加えて、週１回全病棟でのＮＳＴ回診、ＮＳＴミーティング、月１回のＮＳＴ部会会議を定期的に行っております。

ＮＳＴ回診時には、栄養状態に問題のある患者さんを個別に診させていただき、ミーティングにて治療方針を検討して、主治医・担当看護師との情報交換を行っております。さらに、ＮＳＴ部会会議におきましては、病院全体での栄養管理の指針・マニュアル作製及び職員に対する教育などを図っております。まだ、新しいチームですので更なる向上と発展により、患者さんの栄養管理をより充実させていきたいと考えております。

臨時看護職員募集

看護師・助産師を募集中

川崎市立川崎病院では、臨時的任用看護職員
(看護師・助産師)を募集しています。
希望される方は、次の要領でお申し込みください。

① 職　　種　　看護師・助産師（免許取得者）
② 勤務時間　　勤務時間等はご相談に応じます
③ 勤務場所　　川崎市立川崎病院
④ 休　　暇　　期間・勤務時間に応じて有休あり

お申込み・お問合せ：
当院看護部管理室へ直接お電話ください。
☎(044)233-5521(代)

詳細は、川崎市立川崎病院ホームページの
「臨時看護職員募集のお知らせ」
http://www.city.kawasaki.jp/35/35byoin/home/0007.htm
をご覧ください。

部門紹介

感染症対策管理室

感染対策管理室は、入院中の患者さん、外来患者さん、病院職員や学生、ボランティアなどすべての人々を感染から守るための様々な活動に取り組んでいます。

メンバーは、感染症専門医、感染管理認定看護師、薬剤師、検査技師及び管理係で構成された専門家の集まりです。

最近は、鳥インフルエンザや狂犬病などが話題になっていますが、病院内だけでなく近隣の病院、市民の方からのご相談にも対応しております。疑問や質問をお持ちの方は、ご相談ください。

感染対策管理室室長　　小井戸　則彦

川崎市立川崎病院の情報や診療科・専門外来などについては、当院のホームページでご案内しております。
ホームページでは、その他にも新しい情報や皆様の健康に役立つ情報をお届けしていますので、ぜひ！アクセスしてください。
http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/home.htm

総合診療科

医学の進歩に伴い医療の専門分化，高度化により臓器ごとの病気の専門医は増加し、これまで治療困難とされた病気が克服できるようになりました。しかし、患者さん全体を診て適切な診療を行う総合診療医は少なく、いま社会的に求められています。

そこで、当院では平成10年に総合診療科を創設し、医師免許取得後2年以上臨床医療に専念した医師を対象に、総合診療医の養成を行っています。具体的には、内科及び救命救急センターでの診療を2本の大きな柱とし、必要に応じて各診療科医師の指導を受けながら日夜研鑽を積んでおります。古来から医師にとっての最良の教師は患者さんといわれておりますが、当院には様々な病気をお持ちの数多くの患者さんが来院されます。患者さんの苦しみを取り除き、患者さんとともに病気を治す診療の場を通して、一人でも多くの優れた総合診療医を輩出したいと考えております。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

季節の one point

アレルギー性結膜炎のおはなし

今回は眼科の高野副医長にお話を伺いました。

アレルギー性結膜疾患は、アレルゲン(アレルギーを引き起こす原因物質)に対し、眼が過剰な免疫反応を起こすことにより結膜に炎症を起こす病気の総称で、大きく二つに分けられます。一つは花粉症に代表される季節性のものと、ほこりなどにより1年を通して症状が出やすい通年性のアレルギー性結膜疾患です。これらは比較的軽症で、主な症状はかゆみや充血で点眼薬のみで、多くの場合、症状は軽快します。

これに対し、若年者にみられる春季カタルやアトピーを伴う方にみられるアトピー性角結膜炎などは重症化することもあり、角膜に傷や潰瘍ができ、強い痛みや視力低下を起こすことがあります。

アレルギー性結膜疾患のコントロールで最も有効な手段は、アレルゲンを避けることです。花粉が原因の場合はシーズン中の外出時は必要であれば、メガネやゴーグルで眼に花粉が接する量を最小限にし、ほこりやダニが原因の場合はまめに掃除をする、風通しをよくする、寝具を清潔に保つ、高密度繊維の防ダニふとんカバーを使用するなどが有効です。

しかし、これらの対策をしても完全に症状を予防することは難しく、通常は点眼薬の使用が必要となります。

抗ヒスタミン薬はかゆみの原因となるヒスタミンの働きを抑制するので、かゆみに対して特に有効です。抗アレルギー薬は効果が出るまでに少し時間がかかるので、花粉症の場合は花粉が飛び始める季節より前に点眼薬を使い始めましょう。これらを使っても症状が強い場合は弱いステロイドの点眼薬を期間や回数に十分注意しながら使用します。

重症のアレルギーの場合は、これらの点眼薬や弱いステロイドでは悪化を抑えられない場合があり、ステロイドの内服が必要となるときや免疫抑制剤の点眼を行うこともあります。

点眼薬は症状や眼の状態によって使い分けるため、医師の診察を受けましょう。